学習内容報告書 フォーマット

学校名	彦根市立佐和山小学校
授業者	樋口朋哉　有川美月　溝口聡

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

見つけた！びわ湖のキラリ　伝えよう！びわ湖のためにできること

1-2.　学年

第５学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、国語科、社会科、理科、特別活動

1-4.　単元の概要

地域のよさを学んだ第３学年、県内の伝統工業に触れた第４学年から、第５学年では滋賀県に住む子どもたちにとって最も身近な水環境である「琵琶湖」について学ぶ。

単元の前半では、本県独自の宿泊体験型学習「フローティングスクール」を通して、琵琶湖の現状と課題について興味関心を高める。児童それぞれが琵琶湖について調べたいテーマを設定し、調べたことを交流する。琵琶湖のキラリと光るよさを守り、次代へ受け継いでいくための「課題」に気付かせる。

単元の後半では、琵琶湖と共に生きる人々と出会わせ、「琵琶湖と共に生きるとは」について考えさせる。変わりゆく琵琶湖環境と共に生き、その環境を次代へつなげるために行動している人々との出会いは、子どもたちの行動化への大きな意欲となる。琵琶湖環境を守るための実践とその発信を通して、自分たちの活動が琵琶湖を、その先の海まで守ることにつながることを気付かせたい。

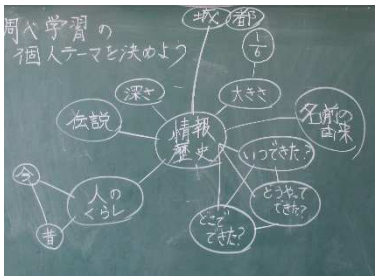
1-5.　単元設定の理由・ねらい

琵琶湖に関心をもち、環境問題を始めとする様々な課題を追求し、よりよい未来のために行動できる子どもの育成を目指した。そのためには子どもにとって身近な存在である「琵琶湖」のよさや課題について考え、実践につなげていく力が必要となる。「琵琶湖」という子どもにとっての身近な水資源について考え、行動することは、海洋環境ひいては未来の地球環境を自分たちで創っていこうという姿につながると考え、本単元を設定した。

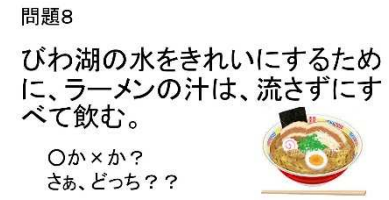
1-6.　育みたい資質や能力、態度

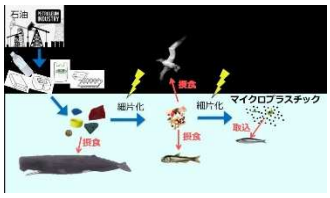
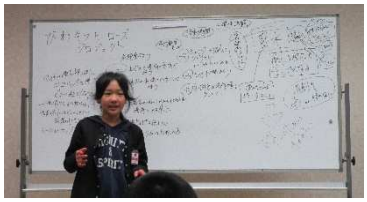
・琵琶湖環境を始めとする水環境についての関心・意欲・態度
・課題の探求や解決に必要な情報の収集・分析・活用力
・課題の探求や解決に関わって、協働的に取り組む力
・学習を通して未来の地球環境に思いを馳せ、学んだことを生かして行動しようとする態度

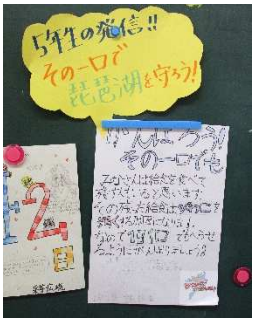
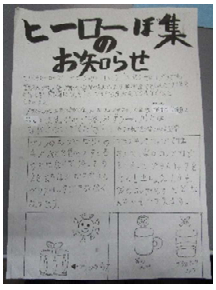
1-7.　単元の展開（全５３時間）

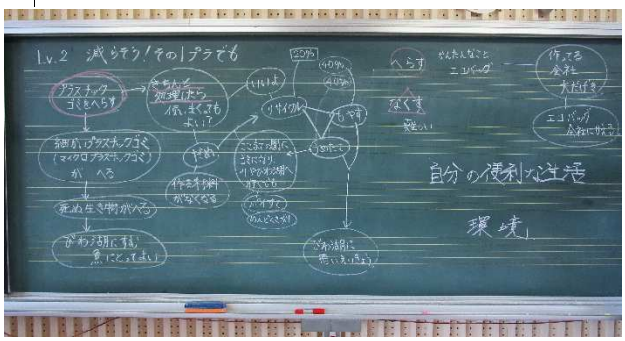
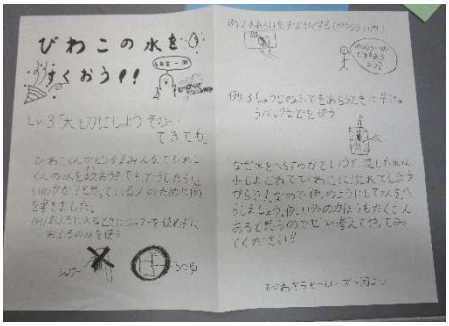
時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2 3	・総合ガイダンス 琵琶湖のキラリと光るよさを見つけようという学習課題を知る。 ・琵琶湖のイメージマップを広げよう ・広げたマップを学年で交流し、くわしく調べていきたいテーマを設定する。 （魚、鳥、植物、歴史など）	・自分たちの知っている「琵琶湖」を振り返らせる。身近なものなのに知らないことが多いことに気付かせたい。 【学びに向かう力】 ・自分の経験をもとに、琵琶湖について考えたことや知っていることを進んで友達に伝えている。
4	・テーマ毎にイメージマップを広げよう 調べていきたいことを整理し、見通しをもつ。 	・子どもの「調べたい」という思いを引き出せるようにイメージマップを広げていきたい。 【思・判・表】 ・イメージマップをもとに、自分が調べたいことを考えることができる。
5 6 7	・テーマ毎の調べ学習に取り組もう インターネットや書籍を使って、調べ学習に取り組む。	【思・判・表】 ・調べたい課題について、インターネットや書籍等を用いて情報を集めることができる。 『外部連携』 ・彦根市生活環境課（作成資料を借用） ・近隣の図書館
8 9 10 11 12 13	・フローティングスクールガイダンス （以下ＦＳと表記） どのようなめあてのもと、どのような２日間を過ごすのか、見通しをもつ。 ・ＦＳの学習生活班の係を決めよう ・ＦＳの係別活動の準備を進めよう ・ＦＳ、直前ガイダンス ２日間の航海の見通しをもつ。	・これまでの学習で知った琵琶湖を実際に調べに行く。そのために、何をどのように、確かめるのか子どもの思いを膨らませたい。 【学びに向かう力】 ・これまで学んできた琵琶湖についての知識や関心をＦＳの学習に生かそうとしている。
14 15 16 17	・ＦＳ 学習船甲板からの展望活動 	【知・技】 ・琵琶湖には様々な生き物がいることを知ることができる。 ・琵琶湖の環境は一定ではなく、昔と比べて変化してきていることを知ることができる。 【思・判・表】 ・展望活動や環境学習を通して、考えたことや気付いたことをまとめることができる。

	寄港地活動（南湖での湖岸ウォーク） 環境学習 （プランクトン・魚の観察、湖泥観察） （水回復実験、透視度比較調査） 	【学びに向かう力】 ・班の友達と協力して、進んで展望活動や環境学習に取り組むことができている。 『外部連携』 ・学習船「うみのこ」 滋賀県立びわ湖フローティングスクール
18	・ＦＳの学びを振り返り、交流しよう どのような琵琶湖のよさを見つけたか、学年で交流する。	【知・技】 ・琵琶湖に生きる様々な動植物と水質などの環境は相互に関わっていることを知ることができる。 【思・判・表】 ・ＦＳを通して学んだことや気付いたことを友達に伝えることができる。
19 20 21	・調べたことや学んだことを生かして交流会の準備を進めよう。 クイズ作りに必要な情報を集める。 テーマ別グループ毎に調べたことを生かしてクイズを作る。	【思・判・表】 ・これまで学んできたことを生かして、びわ湖クイズを考えることができる。 【学びに向かう力】 ・友達の意見や考えを尊重しながら、クイズ作りに取り組んでいる。
22 23	・学級対抗びわ湖ウルトラクイズ大会を楽しもう。 自分が調べてこなかった他のテーマについて、クイズを通して楽しみながら知る。 ・びわ湖ウルトラクイズ大会を振り返ろう 自分の調べたテーマ以外に、交流会を通してどのような琵琶湖のキラリを見つけられたかを振り返り、学びの共有を図る。	【知・技】 ・グループで考えたクイズを友達に分かりやすく伝えることができる。 【学びに向かう力】 ・グループの友達と協力して、クイズ大会を楽しんでいる。 ※下記 2-1, 2-2. 2-3 参照

24	・夏休みびわ湖環境チャレンジを計画しよう。 これまでの学びを生かして、夏休みに取り組めそうなことがないか、意見を出し合う。交流したことを参考に計画をたてる。	・「しなければならない」のではなく、「やってみたい」が生まれるように進める。 【思・判・表】 ・これまでの学習を生かして、自分が夏休みに取り組むびわ湖環境チャレンジの計画を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・学んだことを生かして、進んでびわ湖に関わろうとしている。
25	・夏休みびわ湖環境チャレンジを交流しよう 夏休みに取り組んだ琵琶湖のキラリを調べた成果やキラリを守るために活動したことなどを交流する。	【思・判・表】 ・自分が取り組んだ夏休みびわ湖環境チャレンジを友達にわかりやすく伝えることができる。 【学びに向かう力】 ・夏休みに取り組んだことや取組を通して気付いたことを進んで友達に伝えている。
26	・交流を生かして、琵琶湖のよさを守るためにどのようなことをすると琵琶湖環境がよくなるのか考えよう。 自分にできることと学年でできることの違いを考え、琵琶湖環境を守っていくために何ができるか話合い活動に取り組む。	・夏休み総合チャレンジで取り組んだことなどをもとに、琵琶湖環境の未来のために学年全員で取り組めることを考えさせる。 【思・判・表】 ・これまでの学びを振り返りながら、琵琶湖環境をよくしていくための活動について考えることができる。
27	・「琵琶湖を守る」とはどういうことか考えよう。 パワーポイント資料を見て、「琵琶湖を守る」とはどういうことかを話し合う。  	【知・技】 ・琵琶湖環境をよくしていくには、自分たちの生活を見直すことが必要であることを知ることができる。 【思・判・表】 ・これまでの学びを振り返りながら、琵琶湖環境をよくしてくためにできることについて考えることができる。
28 29	・沖島についてのガイダンス ・沖島校外学習 琵琶湖と共に生きる人々の思いを聞き、「琵琶湖を守る」「共に生きる」とはどういうことかを学ぶ。 	【知・技】 ・自分の住んでいる町との違いを比べながら、沖島の暮らしについて知ることができる。 【思・判・表】 ・琵琶湖で漁師をされている方の話を聞き、琵琶湖の課題について考えることができる。 『外部連携』 ・沖島漁業協同組合 ・沖島コミュニティーセンター ・近江八幡市立沖島小学校

30	・沖島で学んだことを交流しよう。 沖島を探索して気付いたことや漁業協同組合長、沖島小学校の先生の話から考えたことを伝え合う。	【思・判・表】 ・沖島校外学習で学んだことや気付いたことを生かして、琵琶湖環境をよくしていくための活動について考えることができる。 【学びに向かう力】 ・沖島校外学習で学んだことや気付いたことを生かして、琵琶湖環境をよくしていきたいと思いを高めている。 ※下記 2-4, 2-5, 2-6 参照
31	・琵琶湖のつながりについて考えよう。 マイクロプラスチックゴミや水質汚染など、琵琶湖と河川、海洋それぞれの課題を比較する。 琵琶湖環境を守ることが河川や海洋を守ることにつながることを知る。  	【知・技】 ・琵琶湖と河川、海洋がつながっていて、相互に影響を与えていることを知ることができる。 【学びに向かう力】 ・琵琶湖環境の課題と河川や海洋の環境問題を比べながら、琵琶湖環境をよくしていきたいという思いを高めている。
32 33 34	・琵琶湖の未来をよくするプロジェクトを立ち上げよう。 課題とその解決のために行う実践について考える。 考えた実践を交流する。 実践の発信の仕方を考える。（プロジェクト化）	【知・技】 ・琵琶湖環境をはじめ、未来の環境を創っていくための実践や発信の方法について、根拠を述べながら友達に伝えることができる。 【思・判・表】 ・琵琶湖環境をはじめ、未来の環境を創るために実践や発信がどのような役割を果たすか考えることができる。 【学びに向かう力】 ・プロジェクトの内容や発信に進んで取り組み、琵琶湖環境をはじめ、未来の環境を創っていこうという思いを高めている。
35 36	・琵琶湖の未来をよくするプロジェクトを始めよう。 ロゴマーク、実践のネーミング、テーマソングについて意見を出し合う。 学級毎に出した意見を発表し合い、学年で意見をまとめる。 	【知・技】 ・琵琶湖環境の未来を創っていくための実践について、発信という視点で考えたことを伝えることができる。 【思・判・表】 ・琵琶湖環境の未来を創るために実践の発信をどのように進めていくか、考えることができる。 【学びに向かう力】 ・友達の考えを尊重しながら、プロジェクトの進め方について進んで考えている。

37	・冬休み総合チャレンジの計画を立てよう。 環境プロジェクトを家庭で取り組むための計画を立てる。	【思・判・表】 ・これまでに話し合ってきたことをもとに、家庭でできる実践について考えることができる。 【学びに向かう力】 ・これまで話し合ってきたことをもとに、進んで家庭でできる実践について取り組もうとしている。
38 39	・冬休みに取り組んだことを交流してプロジェクト発信計画を立てよう。（LEVEL１） ・発信のための部会を立ち上げよう ポスター、動画ＰＲ、放送、新聞など	【思・判・表】 ・「冬休み総合チャレンジ」をもとに、プロジェクト発信計画を立て、どのように発信するか考えることができる。 【学びに向かう力】 ・「冬休み総合チャレンジ」で取り組んだことを進んで友達に伝えたり、プロジェクト発信計画でどのように発信するか考えたことを進んで友達に伝えたりしている。
40 41 42	・部会別活動（LEVEL１） ポスター作成、動画ＰＲなど部会毎に活動を進める。  	【知・技】 ・LEVEL１の活動をポスターや動画などに分かりやすくまとめ、発信することができる。 【思・判・表】 ・LEVEL１の活動を分かりやすく伝えるための工夫を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・LEVEL１の活動を分かりやすく伝えるために、友達と進んで協力している。
43	・プロジェクト LEVEL１の活動を振り返って、LEVEL２の活動計画を考えよう。	【思・判・表】 ・LEVEL１の活動をもとに、びわ湖環境をより一層よくするための活動（LEVEL２）を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・LEVEL１の活動をもとに、びわ湖環境をより一層よくするための活動（LEVEL２）について考えたことを進んで友達に伝えている。
44 45 46	・部会別活動（LEVEL２） ポスター作成、動画ＰＲなど部会毎に活動を進める。  	【知・技】 ・LEVEL２の活動をポスターや動画などに分かりやすくまとめ、発信することができる。 【思・判・表】 ・LEVEL２の活動を分かりやすく伝えるための工夫を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・LEVEL２の活動を分かりやすく伝えるために、友達

		と進んで協力している。
47 48	・琵琶湖のよさや課題をたくさんの人に知ってもらおう。 琵琶湖のよさや課題を伝える体験型ブースを作る。（校内学習発表会、参観授業など） 	【知・技】 ・びわ湖の良さや課題をポスターなどにまとめ、分かりやすく発信することができる。 【思・判・表】 ・びわ湖の良さや課題を分かりやすく伝えるための工夫を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・びわ湖の良さや課題を分かりやすく伝えるために、友達と進んで協力している。
49	・ちょっと考え直してみよう。 これまでの実践がどのように琵琶湖環境をよくしていくことにつながるのか、マップにまとめながら整理していく。 	・子どもの考えに批判的な切り返しをするなど、揺さぶりをかけて、活動への自信を持たせる。 【知・技】 ・これまでの活動一つ一つがつながり、びわ湖環境をよくしていくことを理解することができる。 【思・判・表】 ・これまでの活動がどのようにびわ湖環境をよくしていくかを考えることができる。 【学びに向かう力】 ・これまでの活動がどのようにびわ湖環境をよくしていくかについて考えたことを進んで友達に伝えている。
50	・LEVEL３の活動計画について考えよう。	【思・判・表】 ・ちょっと考え直したことをもとに、びわ湖環境をより一層良くするための活動（LEVEL３）を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・ちょっと考えたことをもとに、びわ湖環境をより一層よくするための活動（LEVEL３）について考えたことを進んで友達に伝えている。
51 52	・部会別活動 ポスター作成、動画ＰＲなど部会毎に活動を進める。 	【知・技】 ・LEVEL３の活動をポスターや動画などに分かりやすくまとめ、発信することができる。 【思・判・表】 ・LEVEL３の活動を分かりやすく伝えるための工夫を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・LEVEL３の活動を分かりやすく伝えるために、友達と進んで協力している。

53	・プロジェクトを振り返ろう。 今年一年間を報告書という形にまとめて交流会を行う。（参観授業） 	・学んだことを時系列でまとめただけのものにならないように、学習前と学習後の考え方の変化やこれからの自分の生活について自分の考えを書かせる。 【思・判・表】 ・これまでの学びをもとに、びわ湖環境をより一層良くしていくために大切なことについて、考えることができる。 【学びに向かう力】 ・これまでの学びをもとに、びわ湖のこれからについて考えたことを進んで友達に伝えている。

2.

学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　53　時間中の　22、23　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/　単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

「学級対抗びわ湖ウルトラクイズ大会」を通して、調べてまとめた琵琶湖のキラリを交流し、琵琶湖のキラリをさらに輝かせたり、守ったりするために大切なことを考えることができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１、「琵琶湖のキラリ」について学んだことをふり返る。 ・琵琶湖には固有種の魚がいる。 ・琵琶湖にはヨシという植物が生えている。 ・富栄養化によって、琵琶湖がとても汚れた時があった。 ２、「学級対抗琵琶湖ウルトラクイズ大会」の説明をきく。	・数人を指名して発言させたり、近くの人と話し合わせたりして、「琵琶湖のキラリ」について学んだことをふり返るよう促す。
学級対抗琵琶湖ウルトラクイズ大会を楽しもう。	
３、グループに分かれて琵琶湖のキラリを交流する。	・グループにペンやボードを渡し、スムーズな交流を促す。 【学びに向かう力、人間性等】 進んでグループメンバーに声をかけ、交流がスムーズに行えるようにしている。 【知識及び技能】 準備したクイズを分かりやすくグループメンバーに伝えることができる。
４、琵琶湖のキラリを更に輝かせたり、守り続けたりするために大切なことについて考え、交流する。	・琵琶湖のキラリの中でも、更に輝かせたいことや守り続けたい大切なことについて、近くの人と話し合うことを促す。 【思考力・判断力・表現力等】

	学級対抗琵琶湖ウルトラクイズ大会を通して、琵琶湖のキラリを更に輝かせたり、守り続けたりするために大切なことを考えることができる。

2-4.　単元における位置づけ

単元　53　時間中の　30　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/　単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-5.　本時の目標

沖島での学習を振り返り、琵琶湖のよさを守るために自分たちにできることについて考えることができる。

2-6.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1、沖島での学習をふり返る。 ・琵琶湖は、だんだんきれいになっている。 ・漁師はどんどん減り、沖島の人口も減っている。	・近くの人と話したり、数人を指名して発言させたりして、沖島での学習から琵琶湖のよさや課題について学んだことをふり返るよう促す。
琵琶湖の環境を良くするために、自分達にできることを考えよう。	
2、グループで、「琵琶湖の環境を良くするために自分達にできること」について考えたことを話し合い、ワークシートに書く。 ・ゴミを減らすことが大切じゃないかな？ ・去年の「ちょっと３か条」みたいに、みんなに呼びかけることが大切じゃないかな？	・友達の考えをワークシートに記録するよう促す。 【学びに向かう力、人間性等】 沖島校外学習で学んだことや気付いたことを生かして、琵琶湖環境をよくしていきたいと思いを高めている。
3、「琵琶湖の環境をよくするために自分たちにできること」についての考えを学級で交流する。	・具体的に考えている児童を数人指名して発言させる。 【思考力、判断力、表現力等】 沖島校外学習で学んだことや気付いたことを生かして、琵琶湖環境をよくしていくための活動について考えることができる。
4、「琵琶湖の環境を良くするために自分たちにできること」についての自分の考えをワークシートに書く。 ・ゴミを減らせば、水がきれいになって、琵琶湖環境がよくなるはず。 ・外来魚を必ず回収ボックスに入れるよう、呼びかけよう。	・自分の考えが、なぜ琵琶湖の環境を良くすることにつながるのか、理由と方法をワークシートに書くよう促す。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えが、なぜ琵琶湖の環境をよくすることにつながるのか、根拠や方法を考えることができる。

3.　今回の活動の自己評価

・子どもにとって身近な水環境である琵琶湖環境を学習テーマにしたことは効果的であった。FS や沖島校外学習などの体験的な学習や子どもの「～したい。」を大切にした学習展開は、子どもの環境をよくしたいという思いが高まり、課題解決に対して必然性が生まれた。
・本校では、六年生がリーダーとして縦割り班活動に盛んに取り組んでおり、子ども発信のプロジェクト型学習に親しんでいる。また昨年度の環境学習においても、５年生からの発信を行っている。そのため課題解決に向けての発信段階において、子どもたちは六年生をモデルに琵琶湖環境のためのプロジェクトを立ち上げて進めることができた。継続的に琵琶湖環境学習に取り組み、発信してきた成果の一つであると考える。
・琵琶湖環境の課題解決について、様々な情報を集めたり比較したりするなかで、琵琶湖と河川、琵琶湖と海洋のつながりに子どもが自然と気付いた。自分たちの実践やプロジェクトの発信が琵琶湖だけでなく、河川や海洋を救うことにつながることに気付き、進んで活動することができたと考える。

4.　今後の課題

・助成事業がなくなった際に、沖島校外学習が行うことが難しくなる。費用を使わずに、琵琶湖と共に生きる人々の思いや生活の様子を感じさせることが必要である。
・調べ学習を進める際に、関連書籍を近隣の図書館から集めてきたが、数に限りがあり、十分な情報が集まらなかった。またインターネットを使用しての情報収集も書かれている内容が難しく、理解に時間がかかることがあった。博物館の派遣事業や市生活環境課と連携するなど、情報収集に当たっても人との出会いを多く仕組んでいく必要があると考える。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・本校は教育課程特例校（英語科）の指定を受けており、総合的な学習の時間において本単元に使える時間が少なくなっている。そのため総合的な学習の時間だけでなく、国語科や社会科など単元横横断的な学びをして指導時数を確保してきた。
・地域に学び、世界に目を向け、地域で実践を、という思いのもと学習内容を計画した。本県独自の FS 事業や沖島校外学習など、地域性の強い学習内容になっているため、活用にあたっては地域にあった形に変える必要がある。

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。